

Let's connect with Japan ! !

代表者 サポコタ・ナビン (国際B1年)
構成員 壽恵村夏未 (人文B1年) 川端蒼海 (人文B1年) 豊田昂志 (国際B1年)
池田萌 (国際B1年) 板橋奈津 (国際B1年)

1. Let's connect with Japan!!について

世界の数ある国の中で日本を留学先に選んでくれた留学生の皆さんに文化活動を伝え、幅広い交友関係を築くことで学生生活により満足してもらうことを目的としている。留学生を対象したプロジェクトではあるが山大生や地域を巻き込み、活動を共にすることで幅広い枠内での交流の機会を創出する。「国際交流ひらかわ風の会」の学生会でもあり、今年立ち上がったばかりの山口大学公認サークルBREEZEによる取り組みである。

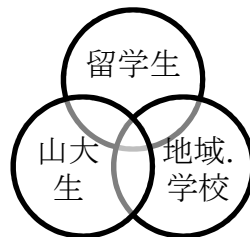


図 プロジェクトイメージ

2. 活動報告

(1) ヒアリング調査

風の会の活動参加時や、学内で出会う留学生に声をかけるなどしてアンケートを実施。イベントを企画した場合参加したいかどうか、日本について今知っていること、体験したい日本文化を尋ねた。アンケートは紙媒体で実施。今のところ37人から回答を得ている。例えば体験したい日本文化として体験したいことに次のような意見がでてくる。日本人のマナー、七夕・花火大会・お正月のような季節のイベント、浴衣・着物のような伝統的な衣服の試着、盆踊りのようなダンス、茶道、華道、書道、折り紙、日本語教室、温泉入浴。中でも浴衣・着物の試着や茶道は体験したいという意見が多かった。これらの意見を参考にして、今後の活動がすこしでも留学生の希望に沿う形になるようにしていきたい。

(2) BREEZE 顔合わせ

10月4日(水)にBREEZEで顔合わせを行った。顧問で経済学部名誉教授の富本先生と大岩先生にもご出席いただいた。この日まで風の会のボランティアに参加するなどして何度か活動はしていたものの、サークルのメンバーで集ったことがなかったので初めての顔合わせとなった。サークル立ち上げの際に中心的に事務仕事などを行った学生が役員となり自己紹介の後、進行を務めた。



BREEZE 顔合わせ集合写真

(3) 山陽小野田市きららガラス未来館にてサンドブラスト体験

10月15日(日)に山陽小野田市きららガラス未来館にてサンドブラスト体験を実施。留学生17人、日本人9人の計26人の参加があった。山口大学からバスを借り上げてガラス館まで行き、19人が体験した。作業は初心者でも簡単で、ガラスのコップやお皿に切り絵を貼り付け、専用の機械を使って特殊な砂を吹き付けて洗い落として完成。舞子や相撲といった日本ならではの切り絵や、クジャクのような複雑なものまで様々だったが、皆趣向を凝らしてオリジナリティーあふれる作品ができていた。



サンドブラスト用イラスト切り抜き作業

今回の活動における反省点は大きく5つある。まずはじめに、当日までの連絡について。そもそも留学生の参加を募る際、一部の日本人学生の人脈を頼りすぎていたために、留学生からの質問が一部のメンバーに殺到したり、学生間でうまく情報共有ができなかった。ラインを使用するにしても質問掲示板を作成して役員の誰でも回答ができ、参加者が閲覧できる仕組みをつくるべきだという案が出た。2つめに、当日の予定表や体験先のパンフレットを配布するべきだった。思い出として形に残る上、1日の流れをみんなで共有できてより進行がスムーズになったはずだ。また当日の集合時間、場所、休憩の有無、準備物等の連絡がラインのグループ上で流されただけだったため、きちんと認識されていないように思われた。解決策として事前に参加のための契約書を作成し、当日のタイムスケジュールや持参物、写真使用の可否などの一種の契約作業を行うべきだという案がでた。3つめに、英語でのコミュニケーションがうまく行かなかったために、移動や体験説明などでは留学生に不便をかけたように思う。ガラス未来館についての説明ももう少し詳しく行いたかったと思う。



館内注意、初期説明

そして4つめは予定していた昼食場所が臨時休業していたことだ。昼食先に対して事前の確認を怠ったために20人以上の昼食の準備をどうしたものかと悩まされた。ガラス未来館のスタッフの方のご配慮により昼食メニューの事前予約と場所確保ができたが、このようにうまくいったのは運がよかったのに過ぎない。団体に動くということを念頭に置いて関わりのある施設、団体には確認をとらなければならないと学んだ。最後に今回の活動目的は留学生に日本文化を体験してもらうことと同時に、留学生間や日本人学生との間の交流を図るものであった。しかしバス移動の際や昼食時、フリータイムにおいても決まったメンバー（主に同じ出身国）でかたまってしまい活発な交流をするに至らなかったのは残念である。ちょっとしたレクリエーション、自己紹介の時間などがあればよかったかなと思う。

よかった点として上がったのは次の3つで、1つめは写真係を固定しなかったのでたくさんの写真が撮れたこと。2つめはガラス体験が初めての留学生が多い中で、今回のサンドブラスト体験は難易度がちょうどよかったこと。3つめに時間に余裕をもたせていたことで出発の遅れや体験の追加、昼食場所の変更などがあっても関わらず大きな失敗がなかったということだ。

なかなかアクシデントの多い初のイベントだったが、体験先のスタッフの方のご配慮に救われて無事に活動ができた。留学生の楽しそうな顔を見て当日までの苦勞が吹き飛んだ。

ここで今回の体験を終えた留学生からの感想を紹介する。「私たちは山口へ来てわずか1月目にして新しい体験ができました。どのようにガラス作品ができるのかよく分かりました。これは私たちが学ぶべき芸術であり、他の人の体験を尊重し、芸術がお金にかえられないものだと思いました。これは魅力的のもので、よくできていました。ありがとう。」「今回のイベントに誘ってくれてありがとう。この体験は私にとって初めてでとても楽しかった。次にまたイベントを企画するときは、ぜひまた誘ってください。」「このようなイベントに誘ってくれてありがとう。とてもよく考えられていて時間に正確でした。これからもこのような企画を続けてください。」との温かいお言葉をいただいた。



作品完成後集合写真

3. 今後の予定

引き続き平川風の会のイベントに学生ボランティアとして参加。
本大学祭姫山祭にてアジア料理4品を留学生と一緒に販売予定。
アンケートで多くの要望があった茶道体験を行う。本大学茶道部に協力を依頼する予定。
企画戦略部国際規格課からご依頼いただいたイベントへの協力、参加。
山口市成人式において留学生の見学要望があったため、検討中

4. 終わりに

おもしろプロジェクトに申請されてから活動を行うまで随分と計画や準備に時間がかかってしまい、今期は1つだけの活動となってしまった。風の会へのボランティア参加に満足してしまい自発的な活動は本当に少ないものとなってしまったことは計画不足であった。しかしたった1度ではあるが私たち自身の企画に予想以上の留学生が参加してくれて、「楽しかった、また誘って欲しい」との声を聞かせていただけたことはとても嬉しかった。残念ながら予算はほとんど残っていない状態なので、次のイベントは予算を抑えめにして行うことになるが、残りのものも留学生に満足してもらえらるものにした。